

臨床検査医学講座

Department of Laboratory Medicine

臨床検査専門医

をご紹介します

臨床検査専門医とは？

新専門医制度において19基本領域の1つ

臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療にかかせません。

臨床検査の全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して良質で安全な患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医です。

全国に 738名 北海道に 17名

旭川医科大学臨床検査専門研修プログラム

《目的と使命》

- 1) 臨床検査に関する知識、技能を習得すること
- 2) 臨床検査を通して診療に貢献すること
- 3) 臨床検査の研究法を習得すること
- 4) 医師として適切な態度と高い倫理性を備えることにより、患者・メディカルスタッフに信頼され、プロフェッショナルとしての誇りをもつこと
- 5) 臨床検査専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること

研修施設

専門研修基幹施設：旭川医科大学病院

専門研修連携施設：北海道大学病院
日本赤十字社北海道ブロック血液センター
市立旭川病院

どのような専門技能を得るの？

- 1) 臨床検査データを判読し、患者の病態を評価し報告書を作成することができる
- 2) 臨床検査値が異常となるメカニズムを追求し、該当患者診療に活用するとともに、概念を普遍化し、広く医療に役立てることができる
- 3) 病態以外の臨床検査値の誤差要因を測定前、測定、測定後のプロセスに分けて評価、判断することができる
- 4) 基本的な臨床検査技能（採血等の検体採取、尿沈渣標本作成と鏡検、血液塗抹標本作成と鏡検、蛋白分画・免疫電気泳動・アインザイムなどの分離分析、血液型判定、グラム染色、抗酸菌染色、心電図、超音波検査、ほか）に習熟し、指導・助言することができる
- 5) 新規検査項目の導入や開発に関して、指導・助言・管理することができる
- 6) 臨床検査医学の分野での研究能力を養い、将来的に研究指導を行うことができる
- 7) 臨床検査医学に関する教育に寄与する
- 8) 感染対策、栄養管理、遺伝子医療、医療安全などを含めたチーム医療のリーダーまたはメンバーとして臨床検査の専門家の立場で活動することができる

臨床検査医学会では

臨床検査医学会はワークライフバランスを推進しています。近年は毎年、日本臨床検査医学会学術集会においてグループワークやランチも含むワークショップが開催されています。2018年は「臨床検査専門医の育成を考える」について話し合いました。



臨床検査医として働くことの魅力って？

- 広い視点で、診療に関わることができる。
- 働き方は比較的多様性に富む。
検査はどの診療科においても必須であるゆえ、
- 臨床検査技師さんを含めた多職種からなるチーム医療の礎に関わることができる。
- 時間を自分でマネジメントしやすい。
- キャリアアップもライフワークバランスも望める。

臨床検査医って何をしているの？

<http://www.jaclap.org/data-bank/senmoni.html>



臨床検査医学講座 にて活躍する先生

をご紹介します

齊藤江里香先生

H15年旭川医大卒

旭川医大病院と旭川厚生病院で2年半を過ごした後、医大病院と外病院を行き来しつつ主に循環器内科医として勤務。現在は臨床検査医学講座に所属し、主に心エコー検査を担当しています。総合内科専門医、循環器専門医を取得済。次は超音波専門医取得を目指しており、今年度の試験(7月)を受験予定。今回は地方の2病院での勤務経験につきご紹介いたします。

<名寄市立病院>

上川北部地域の基幹病院。稚内やオホーツク方面からも多くの患者さんを受け入れています。

勤務時の状況：夫(脳外科医)も同じ病院に勤務。
子供が3歳・1歳⇒6歳・4歳までの2年半を過ごす。

循環器内科の病棟及び外来を担当し、心エコー検査および技師さんの指導(一緒に悩むことが多い)も行っていました。子供は病院付属の保育所(病院から道路を挟んで徒歩2-3分)へ。土日及び夜間の勤務は免除(稀に夜間に食い込むことあり)。夜間の担当患者さんの急変で他の先生に迷惑をかけ、悩むこともありましたが「先生もこの医療を支える大切な一員。一人でも欠ければここは立ち行かないんだよ。」との上司の言葉に励まされました。



<網走厚生病院>

オホーツク地域の中核病院。周辺地域からの患者さんも多いです。勤務時の状況：夫は市内他病院に勤務。子供が8歳・6歳・0歳⇒10歳・8歳・2歳までの1年半を過ごす。

道立オホーツク公園(網走)にて
子供達にもよい経験になりました

循環器内科の外来で週2⇒3回非常勤として勤務していました。「心エコーの先生」と認識されていたため、技師さんから検査所見につき相談を受けることもありました。外来では「先生が来てくれて本当によかった」と患者さんが喜んでくれ、常勤の先生方からも「助かる」との言葉をいただきました。緊急時など一人で外来を担当することもありました。

地方勤務も含め、心エコー検査の技能・知識が力になってくれました。技能を持つことによって、ワークライフバランスをとりながらも、より周囲に貢献することができると考えています。

河端奈穂子先生

旭川厚生病院での初期研修、後期研修(循環器科)の後、旭川医大第一内科、旭川リハビリテーション病院で循環器診療に従事してきました。卒後10年目となるH28年4月より、講座初めての医員(病院臨床検査・輸血部所属)となり、現在は心・血管エコーの検査業務と循環器内科の定期出張外来、専門学校での講義などを行っています。



- ◆ 総合内科専門医
- ◆ 循環器専門医
- ◆ SHD心エコー図認証医
を取得

- 超音波専門医 (来月試験...)
- 臨床検査専門医
も受験予定です

卒後2年目に第一子、7年目に第二子、そして11年目に第三子を出産しました。職場復帰後9か月間は育児短時間勤務を利用し、現在はフルタイムで勤務しています。循環器内科医としての経験を生かして、経胸壁心エコー、頸動脈エコー、経食道心エコーの検査を主に行っています。また経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)や僧帽弁閉鎖不全症、心房中隔欠損症に対するカテーテル治療のような新しい治療法についても、エコー医の一人として関わらせてもらっています。

小学生(6年生と1年生)、2歳児の3人の母親として慌ただしい毎日ですが、臨床検査・輸血部の環境でワークライフバランスをとりながら、医師としても充実した日々を送っています。時間を自分でマネジメントしやすいことも魅力のひとつです。